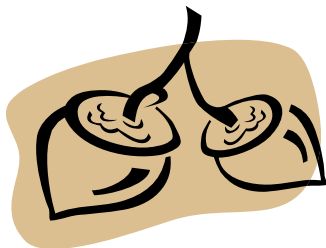


佐事研だより



佐賀県公立小中学校事務研究会

編集発行人 小川 洋起

会員各位

会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。先月の台風13号により九州に大きな被害がもたらされました。皆さまの地域や学校は大丈夫だったでしょうか？

今年度で6年目になります「職務標準表」及び「意識と実態調査」のアンケート調査にご協力下さいまして、ありがとうございます。データの集計ができましたので掲載しております。

第1回理事研修会報告

期日：平成18年7月3日

場所：ドゥイング三日月

(1) 全事研支部長会報告および情勢報告

① 第40回全事研大会（福島大会）での各地区分科会主管要請について

宮崎・福岡・長崎・鹿児島・佐賀の5県での話し合いでは、第41回大会が福岡で予定されており、第40回大会の協力は困難との結論だったが、全国的な協力体制の状況を考慮して、宮崎県が協力することとなった。

② 自民党政務調査会「国家戦略としての教育改革」報告について

【政策提言のポイント】

主任にかわり「主幹」などの管理職と教員をつなぐ職を新たに設置するとともに、教育委員会として学校事務の支援体制を整備し、事務長を置くなど、校長を支え学校を円滑に運営できる体制を確立する。あわせて、それぞれの職に応じたメリハリのある給与体系を構築する。

(2) 第20回大会の反省

① 期日・場所等について

・ 期日はよいが、これ以上早めるのは無理。

・ 「佐賀市ばかりでなく、他地区開催も」という意見もあった。（少数意見）

⇒ 他県の例も見ると、役員中心で開催準備をする県大会は中心地での開催が多く、各地区で開催する県の開催準備は各地区中心（実行委員会形式）になる例が多い。役員中心での中心地を離れた開催は負担が大きいかあまり見当たらない。各地区中心の開催になると、役員や専門部員の規模を大幅に縮小できるが、各地区の負担が大きくなる。

② 開会行事・来賓挨拶について

・ 手違いで、事務所長が2名来訪。

・ 朝の参加者が少なく空席が目立つため、今後は座席が前から詰まるような工夫をしたい。

・ 来賓挨拶の時間については、あまり意義を見出せないという感想もあると思うが、県の教育行政の中心に位置する人に学校事務職員への期待や存在意義を語ってもらうことには大きな意味があるため、今後も続けていきたい。

③ 総会について

・ アンケートでは、特になし。

④ 藤原先生の講演

・ よかったという意見が多い。具体性に富み、事務職員に愛情の感じられる講演だった。

⑤ パネルディスカッションについて

・ 盛り上がり欠けた、会場とのやり取りが難しかった、綿密な打ち合わせをしないと難しいという意見が見られた。

・ 県教委が参加した点は評価する意見が多い。白仁田主幹は藤原先生の講演から聴講。県教委の担当者が学識経験者の共同実施に関する講演を聞いてもらったのでよかったのではないかと。

⑥ その他

・ アンケート回答が少なくなってきた。強制ではないが、次回等への貴重な参考資料になるので、感想を多く聞ければありがたい。

(3) 当面の佐事研運営・活動について

① 各部の活動計画等

・ 研究部 学校事務共同実施研究班は、8月1日に第1回研修会を開催予定

職務規定研究班は、6月27日に第1回研修会を開催。学校や地区の状況等の報告。第2回は8月8日に開催予定。学校徴収金取扱規程、弁償規程、学校備品取扱規程等の資料を各自で持ち寄り、検討を予定。

アクセス！ (<http://www.saga-ed.jp/workshop/sajiken/>)

学校事務研修体系研究班は、8月中旬に第1回研修会を開催予定。研究員をあと若干名募集中。

佐事研ビジョン研究班は、夏休み後半、秋、3学期にそれぞれ1回ずつ研修会を予定。

- ・ 研修部 8月23日、12月4・5日、12月11・12日にテーマ別研修会を開催予定。10月中旬に第2回研修部研修会を開催予定。
- ・ 調査広報部 「職務標準」についてのアンケートを予定。内容については、検討中。
- ② 校長へのアンケートについて
 - ・ 趣旨
学校の管理責任者である校長に、事務職員のどんな働きに期待しているかをアンケートで調査し、今後の実践・佐事研活動に役立てる。
 - ・ 実施方法
詳細は次ページ参照。7月中旬までに各学校長へ郵送予定。8月中旬に事務局で集計・分析、9月中旬に校長・理事会で結果紹介、秋の第21回大会でも結果発表の予定。
佐事研会員の有無にかかわらず、全校へ郵送予定。なお、複数配置校にはアンケート用紙を2枚配布。
 - ・ 結果報告
基本的には、全体の数値で表現し、分析。地区別・事務職員の年齢層別等の集計を望む声もあるが、今回は初めての試みであり、意見の特定につながらないように配慮した。
- (4) 秋の第21回大会について
 - ① 期日 10月12日～27日のアバンセ開館日。
 - ② 場所 佐賀市アバンセ
 - ③ 内容
 - ・ 校長会アンケート結果の発表
 - ・ 講演。未定ながら小野田正利氏（大阪大学大学院 人間学研究科教授）を想定。通称「いちやもん先生」として有名。学校へのクレームと事務職員の関わり方について聴講したい。
 - ・ 同上講演を受け、危機管理としての保護者・地域住民からの苦情やクレームなどへの接し方、事務職員の役割などについてのシンポジウムを開催したい。シンポジストは小野田教授、有識者、PTA関係者、校長などと事務職員代表等で構成したい。
 - ③ その他 同上シンポジウム開催にあたっては、佐賀新聞社に取材依頼を要請する。また、シンポジウム開催をPTA・校長へも広く呼びかけてみてはどうか。
- (5) 次回理事研修会の予定
9月6日（水） 14：00～ ドウイング三日月 内容：第21回大会について

豆 知 識

テレビや新聞であるいはインターネットのWebサイトでよく耳にしたり目にしたりする言葉がありますが、果たして本当に理解しているかどうか。よく出てくる言葉をいくつか紹介します。ご存知の方は、飛ばしてください。

M&A=英語で書くと、Merger and Acquisition。訳は、企業の買収と合併。広い意味では営業譲渡・株式譲渡・資本提携も含みます。

ピラティス=もともとは、ドイツの看護士のピラティス（100年位前）という人の名前から来ています。その人が負傷兵のためのリハビリとして考えた運動のことです。ヨガとかバレエとかを取り入れたピラティスは、心と体のバランスを保ち、鍛える効果があります。

ブログ (blog) =weblog の略語。私的な日記のイメージがありますが、普通は時系列の記事に対してのコメントが定期的に更新されるサイトのことです。今は、タレントさんのブログが数多くあります。内容は自由ですので皆さんも始めてみてはいかが？

ワンセグ=携帯機器向けの地上デジタル放送サービスのこと。地上デジタル放送は、放送波を13個の帯域に分けられて（セグメント）放送されています。その一つが携帯機器用に割り当てられたことから「ワンセグ」と呼ばれています。受信料は無料ですが、バッテリーがもつかどうか問題です。（現在開発中）

ロハス (LOHAS) =Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字からとった言葉。健康や地球環境を大切にライフスタイルのこと。有機野菜を食べたり、ハイブリットカーに乗ったりと、現在は、暇と金がある人じゃないとロハス生活は難しいかな。

IT=インフォメーション・テクノロジーのこと。情報技術のことを指します。Iはインターネットのことではありません。ご注意ください。

知ってる？電子ペーパー！

最近、「世界の車窓」を提供しているF通社が電子ペーパーの宣伝をしています。皆さんご存知ですか？

その名のとおりに、厚さ1ミリにも満たないコピー用紙よりちょっと厚い？（現物を触ったことがないのでなんとも言えませんが）種類としては、2種類で紙のように薄いディスプレイで文字や画像の書換えが瞬時にできたうえに、電源OFF後も表示が消えません。もう一つは、熱をコントロールすることによってペーパー（感熱紙のように）に書込や消去を繰り返して使用できるもので、もちろんカラーです。

今年の3月ですか、時計会社のS社がこの電子ペーパーを使った腕時計を発売しましたが完売したそうです。もちろん、電子ペーパー時計ですから手首にぴったり（ブレスレットみたいに曲線）。今後、カード関連や電子ブック、電子新聞、携帯電話、ポスターなどへの利用が見込まれると思われます。究極としては壁貼りテレビが誕生するかもね・・・。

鳥栖・基山地区には3つの共同実施があります。

○鳥栖市中学区事務共同実施 鳥栖中、 基里中、 田代中、 鳥栖西中
（法師山主査）（永淵事務長）（田中事務長）（池田事務長）

事務職員4名による共同実施です。目的としては、教員がよりきめ細かな学習指導が行えるよう、これまで教員が負担していた事務の軽減と大規模校（鳥栖中）のサポート及び実施校間の連携による事務の共同実施により事務の効率化、適正化を図り、学校運営に寄与することです。加配はありません。

組織

全体協議会	年1回（基本）
-------	---------

共同実施研究会	月1回（基本）
---------	---------

があります。

内容については、弾力的にとらえていて、各学校長の承認を受け、8月からは、出張伺・復命を統一様式で行っています。きめ細かな学習支援のほかに、今年度は当初予算要求書の共同作成と備品台帳改定などを予定しています。

○鳥栖市内小学事務共同実施

（実施校 鳥栖小学校 石井、若葉小学校 白濱、鳥栖北小学校 執行）

学校規模の比較的大きい学校3校の共同実施です。
加配はありません。連絡協議会も研究会の要項もありません。月1回2時間程実施しています。
教員の仕事に進出する余裕はとてありません。執行しなければならない仕事を的確に処理し、さらに、今年は特に変化する業務の正確な理解に勤める為、3校で協力体制をつくっています。その一環として、共同実施を行っています。
したがって、内容は当面する業務の打ち合わせと各学校が抱える問題の対策が中心となります。

○基山町学校事務共同実施

平成17年度から加配ありの共同実施です。中学校1校小学校2校で、拠点校は中学校、メンバーの構成は事務長2名、主事2名（新採1名、臨採1名）です。

平成16年度まで中学校が大規模で複数配置であったため、内外ともに共同実施で加配されたという実感が湧きにくい状況です。平成17年度は、拠点校事務長への兼務辞令の発令を町教育委員会が内申をあげず、H18年度にやっと兼務辞令ができました。内外に加配の目的を理解してもらうためには、まだ実践や努力が不足していると思います。

目的としては、「学校事務を共同で行うことにより、町費予算要求、執行事務の重複部分を解消し、効率化を図る。町教委との連携を深めることで、小中を見通した教育行政サービスの一貫性を図る。県費事務、町費事務ともに相互検証、支援体制を強めることでOJTの充実を図る。」をあげています。

実際には、3校で頻りに連絡をとり合い、『普段着のお付き合い』で連携をしています。しかし、未だ3校バラバラでの仕事なので、今後の課題は山積みが実態です。

☆☆「職務標準表」・「意識と実態調査」アンケート集計結果（速報）☆☆

皆様のご協力により、アンケートの集計が完了いたしました。ありがとうございます。集計結果を掲載いたします。一言欄についても掲載しますが、地区名は省いております。集約数は202/255です。今回のグラフは、各年代別を年度別の折れ線グラフにしています。皆さまから頂いた貴重な意見を参考に事務局が、この会の運営に役立っていくことと思います。

《各地区アンケート集約数》

三養基	小城	武雄	多久	神埼	藤津・鹿島	佐賀市	伊万里・西松浦	
15	11	18	9	12	3	31	23	
唐津市	鳥栖・基山	杵島					地区集約数	
51	15	14					202	
							地区人数	255
							回収率	79.2%

〔職務標準表〕アンケート集計表

年代別 設問	20代			30代			40代			50代			合計		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
1	11	0	11	29	0	12	47	4	6	62	4	7	149	8	36
2	6	7	9	11	21	10	21	25	8	28	29	16	66	82	46
3	0	16	6	0	35	6	1	52	4	2	65	5	3	168	20
4	0	5	17	2	30	9	7	42	6	9	59	3	18	136	36
5	3	19	/	10	32	/	32	25	/	40	33	/	85	108	/
6	5	0	16	26	2	14	42	2	13	58	4	11	131	9	54
7	0	4	18	3	20	17	5	34	17	6	46	20	14	104	73
8	0	4	18	2	29	11	3	39	13	6	47	18	11	119	62
9	2	19	/	9	32	/	16	41	/	21	51	/	48	144	/
10	18	1	/	30	9	/	35	14	/	53	14	/	136	39	/

〔意識と実態〕アンケート集計表

年代別 設問	20代				30代				40代				50代				合計			
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
1	5	7	10	/	5	29	8	/	8	43	5	/	11	57	4	/	29	136	27	/
2	3	6	13	/	9	14	19	/	17	14	25	/	25	21	27	/	54	55	84	/
3	5	17	/	/	17	25	/	/	20	35	/	/	29	44	/	/	71	121	/	/
4	9	3	10	/	24	6	12	/	20	10	25	/	41	17	15	/	94	36	62	/
5	1	21	0	/	5	35	2	/	6	49	1	/	10	57	6	/	22	162	9	/
6	1	10	11	/	20	4	18	/	38	5	13	/	54	1	18	/	113	20	60	/
7	0	13	9	0	4	23	11	3	7	24	21	2	11	28	29	2	22	88	70	7
8	3	11	8	0	4	20	13	5	7	28	18	3	6	29	32	2	20	88	71	10
9	12	2	8	/	23	5	14	/	21	10	25	/	35	11	24	/	91	28	71	/
10	12	1	9	/	18	10	14	/	15	18	23	/	27	26	20	/	72	55	66	/

〔職務標準表アンケート一言欄〕

(1) 職務標準表が記入してある業務を新たにしようとする時、必ず他の先生が言われるのは、私が異動して事務が代わった時もひき続きしてくれるのか、また戻されても困るという点です。私個人ではなく全体として動かないといけないと思う。(20代)

(2) 職務標準表の内容については、通知された時の所属の管理職とは話をしたが、その後、異動してからはない。(30代)

- (3) 職務の区分を図るうえで、必要だと思う。時々どこまで自分が仕事をすればよいかわからなくなるので、7、8の設問は、今年新たに職務標準がでたわけではないので、かわらないと思う。(30代)
- (4) 今の管理職は昇格したばかりなので職務標準表については知らない可能性があるのですが、定期的に知らせていく必要はあると思う。以前の管理職とは普通に話していたので、続けていかないと意味がないが、積極的に動く必要のあるものでもない気がする。(30代)
- (5) 管理職のほとんどは知らないと思う。自分自身も職務標準表についてじっくり考えることがないので、一度皆で(研修会等)考える機会を作った方がよいと思う。(30代)
- (6) 今は、何でも屋になっている!○○○に関する事全てはおかしい。(30代)
- (7) 新しい職務標準表(40代)
- (8) 文科省より、新たな学校事務の業務内容の具体的例示が示されている段階で職務標準表の存在自体に意義があるのか。(40代)
- (9) 職務標準表すべてをカバーできるかという無理があると思うが、前へ進むことを考えると必要不可欠であると思う。職務標準表ができたことにより、個人的には意識がずいぶんかわったのだが受け皿ができていないので、空回りの状態である。学校現場がきびしくなっている中で、職員の意識改革がすすまないのが一番もどかしい。(40代)
- (10) 経験年数が浅いうちは、職務標準表が後ろ立て(バックアップ)してくれて、新しい職務に取り組む時、とてもありがたかった。もしなかったら「私の仕事としてやりたい」ということが言えなかったと思う。ある程度、経験を積むとそれぞれ奥が深く、とても一人では全てを完璧にやりこなせない現実に悩んでいる状態です。(40代)
- (11) 職務標準は別として学校の必要とされる仕事を中心にしていってほしい。(40代)
- (12) 年度当初の校長研、教頭研で職務標準表についての説明を毎年するか、新任校長、教頭研修会で研修内容の一議題としてほしい。(40代)
- (13) 職階ごとで職務標準ではなく職務をきめる。(40代)
- (14) 職務標準表はあくまでも標準であり、各学校の実態と一致していない。各学校の事情・実態に合わせて仕事をしている現状では意義は大きくないと思います。(50代)
- (15) 県事研の役員さんが、県教委との話し合いで職務標準表を出してもらっているのですが、私達の職務確立・事務の標準化などのためにも積極的に取り組むべき。(50代)
- (16) 職務標準表ができた当初は、管理職もあることについて理解されたが現在はどうか?(50代)
- (17) 職務標準表は私たちの職務領域の目標であると思います。全てとはいわないが一つでも多く取り組むべきである。佐賀市の校長先生には17年度末(2月頃)職務標準の一覧表を示し、学校徴収金会計で事務職員が教員を指導助言する立場になっていることを説明しましたので、職務標準表の存在はご存知だと思います。自ら標準表を実践することが大切です。評価は後からついてくる。(50代)
- (18) 大規模学校では今の仕事で精一杯。標準職務表は新たに仕事に取り組んでいく時にはとても有効な手段(道具)であるが県全体で一斉に統一するのは学校規模において無理がある。(50代)
- (19) 義務制の学校に勤務しては、自分の仕事はこれですと限定できない。どうしても何でもやらなければならない。従って権限と責任が明確にできない。こうした仕事を30年やってきたが、どう解決していったらいいかわからない。義務の学校事務に関しては、県の職員なのか中途半端な状況が問題です。(50代)
- (20) 今回までに度々、このアンケートを取っておられますが、何かこれから、佐事研で積極的な行動を取られるお考えでしょうか?何回とアンケートを取っても、何も変化がない。(50代)
- (21) 経験年数が30年になります。30年前と今とはかなり変わったものと以前と変わらないものと両方あります。学校で必要とされる人に少しでも近づくために何をすべきか、必要とされるという意味に個人の主観がかなり入っていると思いますが、標準表が個人の主観と合えば問題ないのですが。(50代)
- (22) 職務標準で重要なことは①学校経営への参画②学校事務を総括する→この2つができれば当面、充分だと思います。(50代)
- (23) ここ数年、標準職務表の内容を取り込んでの事務室運営を進めていく傾向が強まった。仕事の量・範囲とも増えていく傾向にあり普段の仕事を圧迫している。「共同実施」での対応とも言われているがその話し合いでも新たな時間を浪費している。実質職場に一人しかいない限界を感じる。このままこの傾向が進めば労働強化につながり、つまらないミスをしたり、病気になる人が増えてくるおそれもある。このまま突き進むことに懸念を感じる。(50代)
- (24) 経験や地区学校規模により差があるため総合的に検討していかなければならない。(50代)
- (25) 職務標準表は、学校事務の領域を示すもの、いわば横の幅の問題。しかし、それらの項目に対する権限いわば'たて'の深さの問題について加味した職務標準表が必要と考える。更に、共同実施を視野に入れた(これまで教員の職務とされてきたものないしこれまで職務として認識されずきた学校支援的職務で、共同実施としての職務として独立した位置づけを与えて良いものe t c)職務も追加する必要があると考えます。(年代不明)
- (26) 職務標準表と共同実施を結びつけて色々されるんでしょうね。(年代不明)
- (27) 平成12年4月1日に通知されたものの、6年経過しており、管理職も当時と比べれば大きく入

れ替わっていると思う。周知、徹底のためにも、毎年度とは言わないが、再度通知してもらえないだろうかと思う。(年代不明)

(28) 職務標準表を活かすには、私たち事務職員を取り巻く環境の整備、とりわけ法的な環境の整備が急務である。例えば財務規則、文書取扱規程等で私たちの立場を明確にすることである(年代不明)
不明 取り組むべきとは思いますが、現在の仕事内容で手一杯。標準表の内容についてある程度やっているつもり(年代不明)

(29) 本年度から共同実施をはじめると、教職員に”たより”として示し、職務標準表の実践にむけていくことにしています。会議等で説明すればなおよかったでしょうが、時間がなく”たより”だけです。ベテランの事務長は、日ごろの実践で校内の信頼・地位も認められていると思いますが、若い人のためにも、必要です。活かしていきたいものです。(年代不明)

〔意識と実態アンケート一言欄〕

(1) 共同実施 今までは事務の効率化は図れない。県教委、市教委、事務職が一体化して制度を確立していかなければならないと思います。(30代)

(2) 共同実施を充実させるか否かはやり方しだいだと思う。形(制度、システム作り)にこだわるあまり、中身の研究が進んでいないように思う。形だけしっかり見せても、まわりの評価は長続きしない。ひたむきに取り組む姿こそ安定した評価へとつながると思う。(30代)

(3) 今のままでは年休もとれません!多忙すぎ!(30代)

(4) 学校評議員会、PTA活動等に積極的に参加していかなければならないと強く思っているが、時間がまったく足りないので現実として参加できない。(30代)

(5) 特になし。(40代)

(6) 理想と現実とはギャップはあって当たり前と思う。(40代)

(7) 共同実施をする事で何をどう変えようとするのかの自分達の意識がはっきりしてなければ、他の職員や外部へ伝わることは、難しい気がする。(40代)

(8) 共同実施で事務の効率化を目ざしているいろいろやってみるけれど、学校に1人では効率化はなかなか計れない。かといって数名で業務を分担・集中処理しても、なかなか効率化までは行きつかない状態です。(40代)

(9) 個人的には意識が高まっているのだが、実態としてはいままでのやりかたを変えたくない現場との意識の違いがある。さらなる意識改革が必要である。前へ進む意識はあるが、進まない現実がある。結局は自分のやる気と行動である。(40代)

(10) 職務の拡大を図りたいが、今その担当をしている職員の仕事をとるような気がして発言ができない。地域によっては教頭や教務が担当している職務もあるため、協力して行うといっても難しく、助言や指導をすとなると越権行為とみなされるようで何もできない。(40代)

(11) (問10から矢印を引っ張ってきて)これは、事務の効率化が目的ではありません。学校教育への貢献が第一の目的です。(50代)

(12) 共同実施は教員の負担軽減や企画委員会への参画を目ざしてやっているとは、自分では思っていない。私は自分の仕事を完璧にやりたいために勉強しています。(50代)

(13) 共同実施の目的は事務職員の力量アップにおいている。効率化は考えていない。(文科省や県にこれで通用するか否かはわかりませんが)(50代)

(14) 総務事務のアウトソーシングがこれから進んでいくことが分かるのに、学校事務はどう変わるのでしょうか?(50代)

(15) 事務職員自らが考え方を考えていかないと という部分があると思う。(50代)

(16) 喩えて言えば、いい服を着ていればそれなりに見られて恥ずかしい思いもせずすむと言うことで今はその方向に進んでいるということでしょうか。昔、背広にネクタイで仕事をしないと子遣いさんと思分けがつかないと言った教育長さんも居ましたが、確かに一理あるにはあるけど部外者の目を気にしすぎていませんか。(50代)

(17) 事務の共同実施の目的は効率化だけではない。(50代)

(18) 正直なところいいのか悪いのか分からない。研究会と共同実施組織の違いが分からない。しかし、今のままでいいとは思わない。立ち止まって考えてはいけな。走りながら考えよう。(50代)

(19) 問6の正しくとはどういう意味がよくわかりません。(50代)

(20) やりかたしだいで、効率化は図れると思うが、こちらの地区は難しい。(50代)

(21) 意識と実態に関する定点観測ご苦労様です。佐事研の調査部のデータはすごいと思います。地道な部局ですが頑張ってください。(50代)

(22) 職務標準表に関しては、もっと事務職員自らが校長や職員に周知させる努力が必要だが日常の仕事に追われ、それだけの余裕がない。共同実施で教育の支援は可能だと思うが、効率化については逆に負担が増えている。(50代)

(23) 共同実施と職務標準表を連動させた(意識した)取り組みが必要(年代不明)

(24) 合理化(事務職員定数上)と学校事務の共同実施とは明確に区別すべきであるが、ゴッチャに理

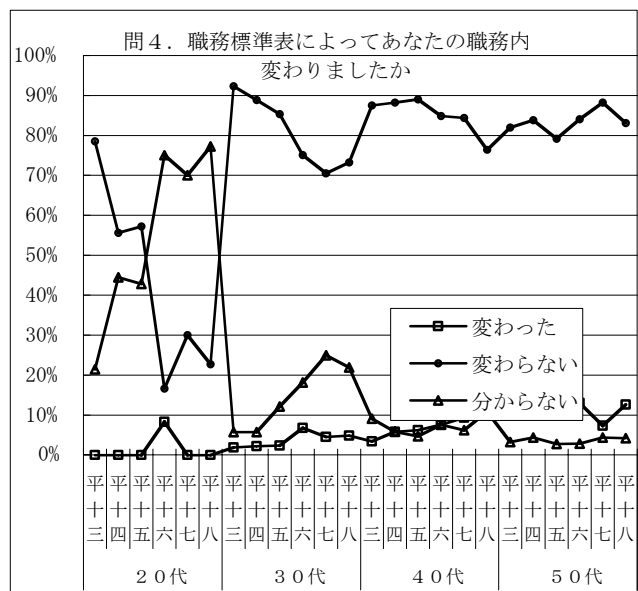
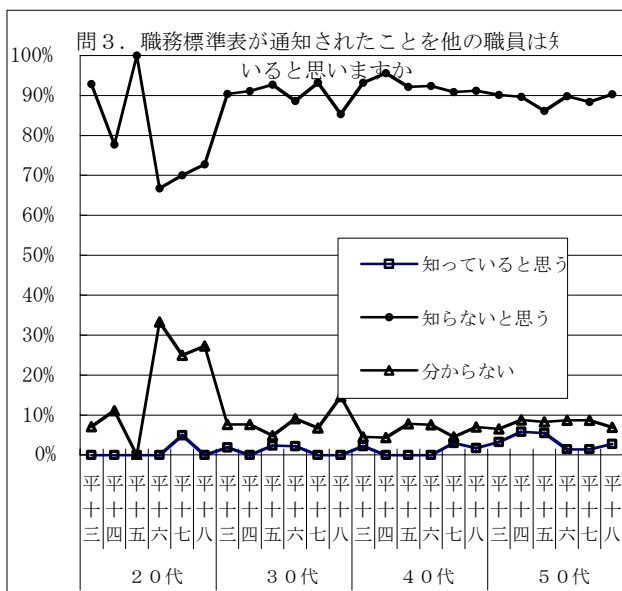
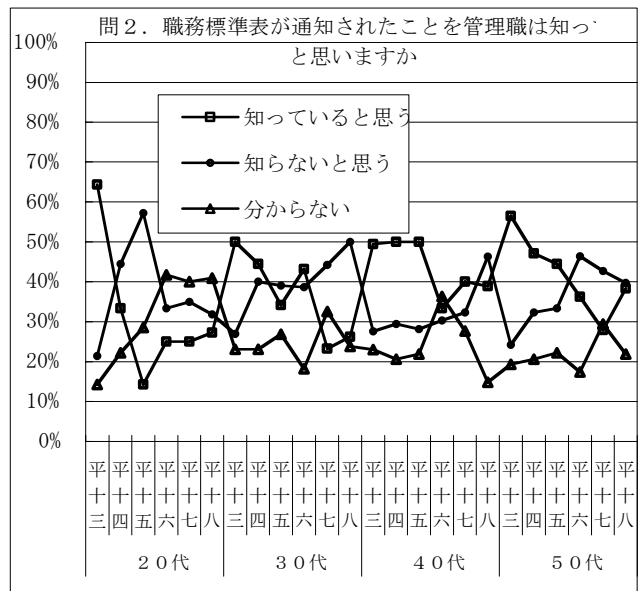
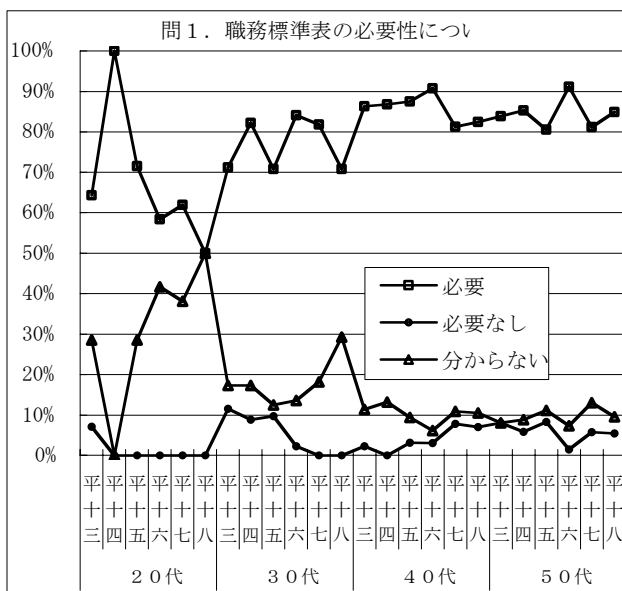
解してる人が多い実態、意識になっている。なぜなら、誰がやっても同じようにできるものであれば、民間委託も含めた合理化は、好むと好まざるとにかかわらずやってくる。だから、誰がやっても同じにならず、誰かに特定した方が費用効果があるものとしなければならない。しかし、一人よがりの方法論や制度論では、自己満足に終わってしまいます。学校事務にとって唯一制度化され認知されたものは、共同実施しかない。そこで、共同実施の問題点があることは知った上で、どのように改善していくか、その結果、どのような学校経営、学校教育の効果が上がってゆくかの視点で、共同実施の充実に努めていく必要がある。(年代不明)

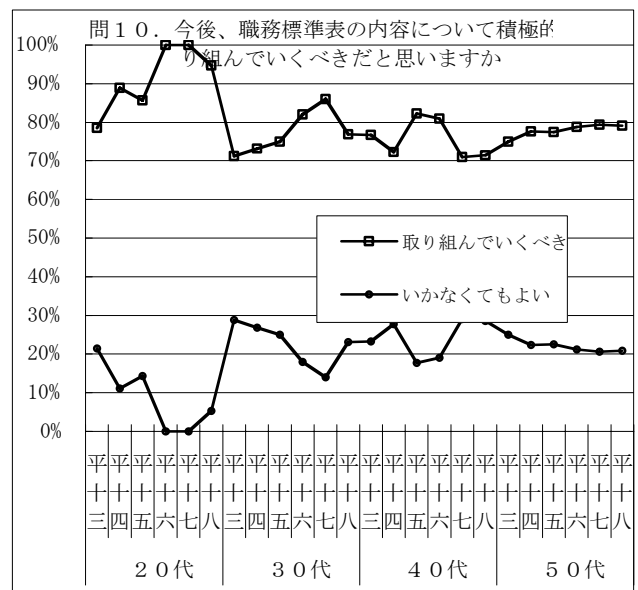
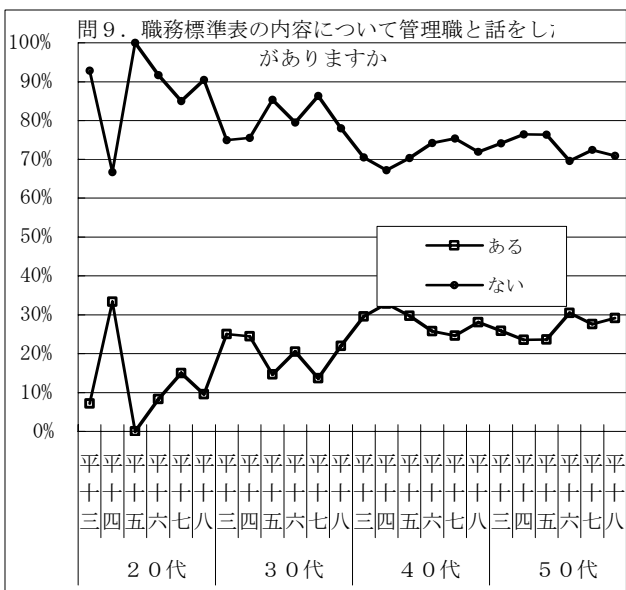
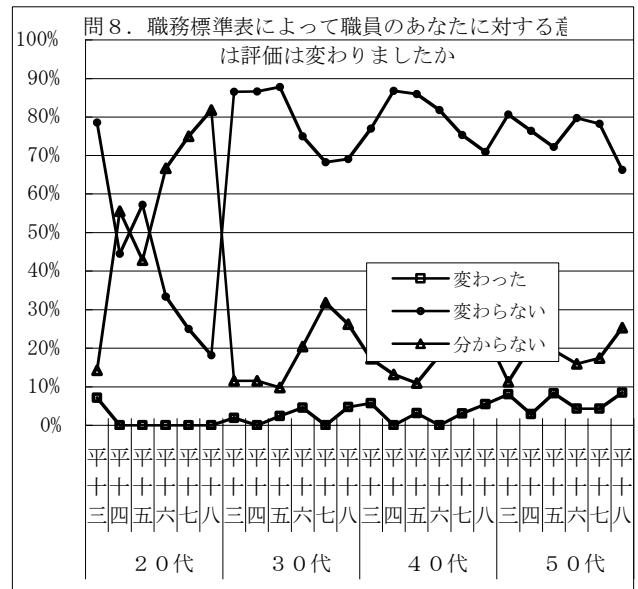
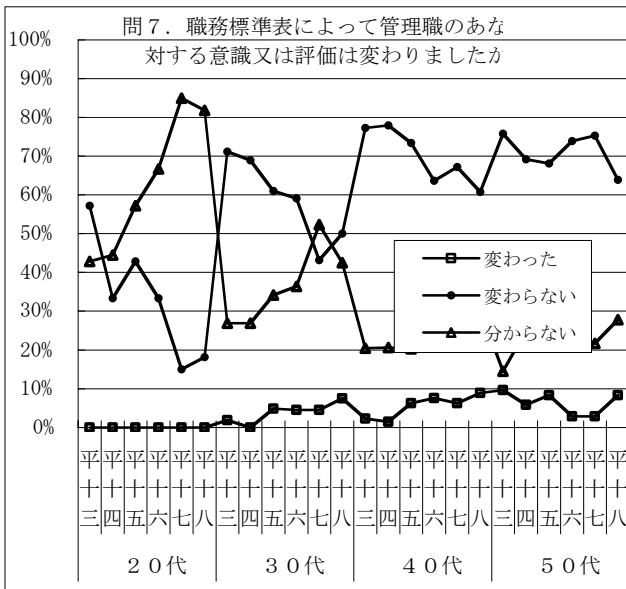
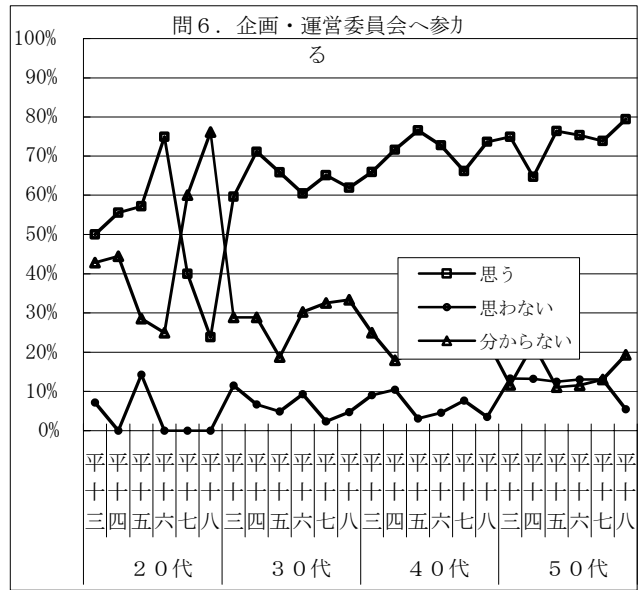
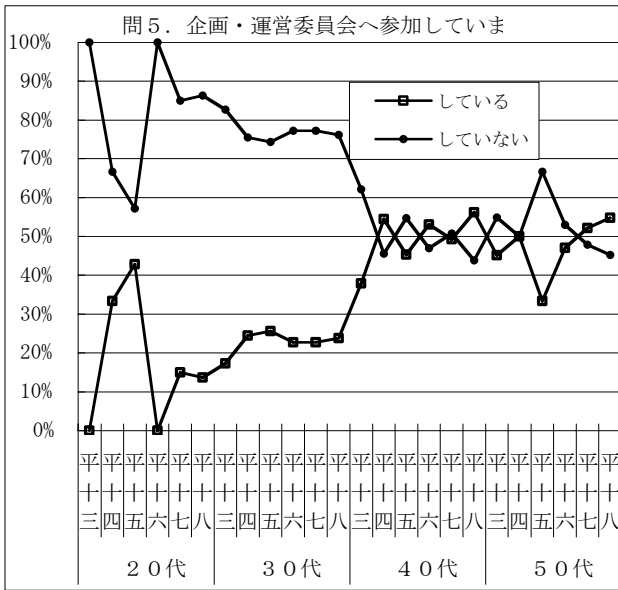
(25) 「事務の共同実施」は、将来的にみれば、センター合理化への道。もっと学校に根をおろして、やっていくべきだと思うのに共同実施については絶対反対。(年代不明)

(26) 「事務の共同実施」をすることで学校全体の仕事を事務職員に移していくことあるいは認定権をもらうことなどの構想はどうなったのか、実際は認定権どころか旅費事務のアウトソーシングに見られるように私たちからどんどん仕事はなくなっていくのが目に見えている。「共同実施」を進めればなおさら拍車がかかるだろう、こんな単純な論理もわからず、いつまでも同じことばかりのアンケートは止めてほしい。(年代不明)

(27) 「事務の共同実施」が何年も前から全国的に取り組まれているが、「事務の効率化」という成果が上がったという話を聞いたためしが無い。かえって忙しくなったという話は山ほど聞きますが・・・教員の事務その他の負担軽減が図られ、生徒指導や教科指導が充実したという話も聞いたためしが無い。事務職員の人件費削減に対する対抗策としての「共同実施」なら、とうの昔に破綻しているのではないのでしょうか? 「学校事務」という職が、確かに社会に必要不可欠で重要な職務であるということを社会に証明出来なければ、代わりのきく職種である職種であると社会に認定されるでしょうね。「共同実施」でそれが証明できたら推進しなければなりません・・・(年代不明)

「職務標準表」アンケート集計グラフ (H18)





「意識と実態」アンケート集計グラフ (H18)

